

オーライ！ニッポン大賞募集



主催：オーライ！ニッポン会議（都市と農山漁村の共生・対流推進会議）

協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

2025年6月30日（月）応募締切

オーライ！ニッポンとは

都市と農山漁村を人々が活発に「往来」し、双方の生活文化を楽しむことで、日本が元気になる「all right（健全）」になることを表現したものです。オーライ！ニッポン会議は、農林漁業体験や田舎暮らしなど都市と農山漁村を行き交う新たなライフスタイルを広め、それぞれの地域の住む皆さんがお互いの地域の魅力を分かち合い、「人、モノ、情報」の行き来を活発にすることで、日本再生を目指します。

募集対象は

「オーライ！ニッポン大賞」と「オーライ！ニッポン ライフスタイル賞」の2種類あります。

（1）オーライ！ニッポン大賞（団体・個人）

都市と農山漁村の共生・対流に関する取り組みのうち、都市と農山漁村の共生・対流の拡大に寄与した実績、効果及び持続性の高い団体又は個人を募集の対象とし、3部門を設定します。

（2）オーライ！ニッポン ライフスタイル賞（個人）

都市部から移住したU/Iターン者もしくは都市と農山漁村を行き来する二地域居住者等のうち、農山漁村において共生・対流の活動に取り組みながら、魅力的なライフスタイルを実践している個人を募集の対象とします。

応募者の特典

第20回オーライ！ニッポン大賞の応募者の中から、適当な者を対象に、認定NPO法人サービスグラントと連携しふるさとプロボノのマッチング支援を実施します。（支援希望者に限る。）

大賞の受賞にもれた方にも今後の活動の発展可能性を広げていくチャンスを提供します。

プロボノとは、一般の社会人が職業上のスキル・経験を活かしたボランティア活動です。
「ふるさとプロボノ」は、農山漁村地域を対象としたプロボノ活動です。

ふるさとプロボノは、認定NPO法人サービスグラントのふるさとプロボノとの連携実施事業となります。都市からの専門家を講師として「どのようなことを地域が望むのか」「課題解決にむけて地域がどう実施したいのか」等のオンラインワークショップの実施や相談活動を実施いたします。

なお支援には、限りがありますので、希望者の中から適切に選定させていただきます。

オーライ！ニッポン会議 03-4335-1985

オーライ！ニッポン

検索

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町4-5番地 神田金子ビル5階 一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構内

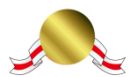
<https://www.kouryu.or.jp/service/ohrai.html/>

募集の対象・表彰の種類

副賞として下記の金額を（一財）都市農山漁村交流活性化機構より贈呈されます。

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組
個人でも団体でも応募できます。団体は法人格の有無を問いません。



グランプリ（内閣総理大臣賞・申請予定）1件 副賞 15万円



オーライ！ニッポン大賞
3件程度 副賞 5万円



審査委員長賞
数件 副賞 3万円

3つの部門（部門は重複して応募できます。）

学生若者カツヤク 都市のチカラ

30代くらいまでの若者の活躍や都市側からの働きかけによって推進されている活動



交流イノベーション 部門

関係人口創出に向けた新たな取り組みや起業、創業等農山漁村を舞台に都市との交流の取り組み等



元気な農山漁村 部門

主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動



オーライ！ニッポン大賞は、都市と農山漁村の交流の取組すべてが対象です。様々な分野からの応募をお待ちしています。たとえば、グリーン・ツーリズム、企業・大学等の社会貢献、コミュニティ活動、2地域居住や定住の促進、起業と雇用（農林漁家民宿・レストラン等）、環境保全（棚田や里山・里海など）、教育（体験型教育旅行、キャリア教育、環境教育等）、農商工連携、伝統文化や食文化の発掘・保全・活用、農業と医療福祉との連携、関係人口を創出する取組、テレワーク、サテライトオフィス、ワーケーション、SDGs等。

オーライ！ニッポンライフスタイル賞

U・J・Iターンにより都市部から移住するなどして、農山漁村地域で魅力的なライフスタイルを実践している個人

5件程度 副賞 3万円

たとえば...交流イベントや古民家活用等を通じて 移住者や交流人口の増加に貢献している人。農山漁村の地域資源を活かして起業（民宿、レストラン、体験ビジネスなど）している人 半農半X 等。



■応募方法は次の3種類

1. インターネットから直接応募ができます！

<https://forms.gle/sJSf7yQ9grPkDTn5A>

2. WEBサイトから応募用紙等ダウンロード

都市農山漁村交流機構のホームページからダウンロードできます。
下記のサイトにアクセスください。

<https://www.kouryu.or.jp/information/ohrai20th.html>

3. 応募用紙等を郵送か送信

インターネットに接続できない方には、ファックスまたは郵送でお送りしますので、事務局までご依頼ください。

alrightnippon@kouryu.or.jp



オーライ！ニッポン会議

オーライ！ニッポン会議はまちとむらの往来を応援します

2003年（平成15年）6月23日設立
都市と農山漁村に住む人々の相互の交流を盛んにして、お互いの生活や文化の良いところを取り入れて充実したライフスタイルを作り上げ、都市と農山漁村の間で「人・もの・情報」が循環（共生・対流）する社会を創り出すことで、ゆとりある生活や経済の活性化を図ることを目的とする。
（代表は養老孟司氏）

オーライ!ニッポン（都市と農山漁村の共生・対流）とは？

過去の実賞者 グランプリ（内閣総理大臣賞）

2023年度 特定非営利活動法人 グリーンウッド自然体験教育センター 長野県泰阜村



3～12泊程度の「信州こども山賊キャンプ」は、ひと夏で1100人の小中学生と400人もの青年ボランティアが集う「行列のできるキャンプ」となった。また、1年間の山村留学は、子どもの週末や放課後の体験活動を支える仕組みをはじめ、大学生や若者夫婦が自然や民家で学ぶ仕組み等、「学びの活動」が次々と組織化され、若者のU・Iターンが増え青年団まで復活。山村留学の卒業生がIターンで村に定住する現象も始まり、限界集落が消滅に寄与したばかりか、村に一つの保育園に待機児童まで出るようになった。人口1600人の村に2万人の「学びをとおした関係人口」が創出され、疲弊しきった山村に希望の灯がともった。

2020年度 第18回 一般社団法人 竹田文化共栄会 福井県坂井市



緑のふるさと協力隊や大学生といった地区外からの若者とも連携し「竹田の里将来ビジョン」を策定しビジョンに基づき、廃校をリノベーションした体験型宿泊施設「竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん」をオープン。また、県内外の大学生が空き家を拠点として活動。地区住民と行政が連携しながら地域課題を解決する活動「竹田Tキャンプ」により、ただの訪問者と受入先という関係を越え、地縁でも血縁でもない絆（第3の縁）が育まれ、交流人口等の増加、雇用増、女性の雇用と大きな成果を挙げている。

2019年度 第17回 一般社団法人 そらの郷 徳島県三好市



著しい人口減少、過疎に対抗して交流人口拡大による観光地域づくりを目指して、体験型教育旅行の誘致・受入れ体制整備と誘致受入活動の実施、一般客向け地型旅行商品の企画開発、販売、促進、流通等の活動を展開している。農家民泊を中心に、急傾斜地での農作業、田舎料理作り、かざら細工、阿波おどり、地域の人との交流などをプログラム化し、厳しい山村環境の生活文化が世界から高く評価され、地域の生活文化に対する誇りや自信、その文化を継承していくことを再認識されるようになっていく。日本の原風景として、内外から高い関心と呼んでいる。

2018年度 第16回 農業法人 株式会社 秋津野 和歌山県田辺市



豊かな柑橘類と南高梅の産地。住民合意のもと489名の住民出資のコミュニティビジネスを成功に導き、住民が出来ることは住民がするという心意気のもと、単に都市部の人を田舎に招くのではなく、都市と農村、食と農の乖離を減らすことを最大の目的とした事業を推進。農家レストランやミカンの樹オーナー制度等と合わせた地域づくり学校など、コミュニティビジネス成功モデルとして高く評価された。

2017年度 第15回 株式会社 信州せいしゅん村 長野県上田市



1998年地域住民7人が農村活性化を目的に集まり、2002年に農村のありのままの暮らしを体験する（農作業・自然散策・家庭生活を一緒に行う）『ほっとステイ事業』を民間事業として開始し継続している。2006年からは海外からの農村体験ホームステイ（以下H Sという）受入を開始。県下7地区で展開している長野県ほっとステイ協会を設立し広域地域振興として取り組む。全域の年間受入者数は約2万人。拠点施設「農家レストラン里の食」や「Gファーム」を営業しつつ、信州大学、県立病院と農村の癒し効果についての実証にも取り組むなど、農村地域を守るために都市生活者や企業とも事業を展開している。

2016年度 第14回 NPO法人 トチギ環境未来基地 栃木県益子町



人手不足で荒廃が進む中山間地域の里山や森林を若者の力で再生するなど、実践活動を通じて次の世代を担う若者を育てることを使命として実施。「若者のチームによる長期間滞在型の森づくり活動プログラム」では4～6名の若者たちが共同生活をしながら近隣の森へ赴き、中山間地域での森づくり活動や地元の人たちとの協力・交流を通じて新たな発見や気づきを得て成長することを目指している。2009年から取組を開始し、7年間で1万3千人を超える参加者となっている。

2015年度 第13回 夢の音村「森の公民館」サウンドファイブ夢の音会 島根県浜田市



これまでに150回を超える自らのステージ活動や40回近いコンサート企画活動（音楽や演劇など優れた舞台文化の招致）など、1968（昭和43）年から始まった47年間の音楽・文化活動は、住民からの理解や認知を受けて町の「顔」として定着。招いた著名人に夢の音村「名誉村民」の称号を贈り、手づくりの林間交流拠点を中心に市民との交流企画を施行。

2014年度 第12回 NPO法人 東村観光推進協議会 沖縄県東村



グリーン（農業体験）、ブルー（漁業体験）、エコ（自然体験）の各部会が協力し、農漁家や地元ガイドが直接参加者と交流する、ほんもの体験型観光による地域活性化を図っている。また、大宜味村や国頭村など隣接する地域とも連携し、広域的な受入体制整備を行っている。人口1,900人余りの村で、グリーン、ブルー、エコの3つのツーリズムを連携させ、地域資源を総合的に活用している点が高く評価されました。年間の売り上げは1億円余り、6名の常勤職員の法人に成長。

2013年度 第11回 おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会 岩手県奥州市・平泉町



2010年度農林水産省補助事業（子ども農山漁村交流プロジェクト対策交付金）の実施モデル地区として、受入体制のさらなる充実等を図り、小学生から高校生までの幅広い年齢層の児童を対象とした、農村生活体験型の教育旅行を企画・受け入れている。震災から2か月後には受入を再開。長年交流を続けてきた学校からの支援を励みに、安全管理体制の強化や誘致活動等に努めた結果、震災から2年目の2013年には震災前の受入規模を回復。

都市（まち）と農山漁村（むら）の往来（おうらい）を活発にすることで、日本の元気（All right）をめざす国民運動です。「共生」は都市と農山漁村が共に支え合う様を、「対流」は相互の交流が絶え間なく繰り返される様を表現しています。



2012年度 第10回 震災復興・地域支援サークルReRoots 宮城県仙台市

県有数の農業地帯である仙台市若林区東部で、被災農家の生活再建に不可欠な農地とコミュニティの再生に取り組む。東日本大震災の甚大な津波被害から「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、避難所で一緒だった学生や住民を中心に設立。スタッフの9割を大学生が担い、全国から延べ20,000人のボランティアを受け入れ（2013年2月現在）。畑に埋もれたガレキを農業機械を痛めないように手作業で除去。復興に向けては作付支援、農業機械貸出、市民農園やスタッフ自ら野菜づくりを行う農園の開設、復旧させた畑で農家が作った野菜を販売する店舗「りるまあと」などに取り組む。



2011年度 第9回 (財)新治農村公園公社 群馬県みなかみ町

(財)新治農村公園公社は、1994年に設立され、旧新治村の地域づくり計画「全村公園化構想」に基づき、地域の主産業である農業と観光を結びつけた地域活性化として取り組んだ都市農村交流事業「たくみの里」を担っている団体で、「自然景観の保全と体験」をコンセプトに、体験施設を各集落に配置する分散型施設づくりを行い、広く農村空間の景観を守ると同時に集落全域に誘客する効果を生み出している。



2010年度 第8回 ふるさと体験学習協会 岩手県久慈市

ふるさと体験学習協会は、久慈市内外の交流による地域活性化を目指して、教育旅行や体験活動等の受入を行っている。指導はすべて地元住民によるもので、山や海など豊かな自然を活かした体験や、昔ながらの知恵や技術、食文化の継承など様々な体験プログラムにより受入を行っている。この取り組みは、交流人口の拡大と受入者との交流によって地域経済の活性化と地域の元気づくりになっており、行政や関係団体とも連携した継続的な取組となっている。



2009年度 第7回 大地の芸術祭実行委員会 新潟県十日町市・津南町

世界でも有数の豪雪地帯である越後妻有では、世界のアーティスト、文化人、研究者、都市のサポーターと住民が協働し、3年大祭「大地の芸術祭」を開催。760平方キロメートルの広大な大地に約200の現代アートが常設されている。この「大地の芸術祭の里」では、晴耕雨読、夏耕冬読の文化交流が四季を通して行われている。アーティストの手がけた交流施設は、地域の人々によって運営されている。



2008年度 第6回 NPO法人 おぢかアイランドツーリズム協会 長崎県小値賀町

島のワンストップ窓口として、個人・団体問わず顧客の要望に応じた「おぢかの島旅」のコーディネート（オリジナルプログラム（工程表）の組立から体験料の収受まで）を一括して行っている。小値賀町から委託で、無人島・野崎島にある宿泊施設「野崎島自然学塾村」を通年営業し、売上の一部を「野崎島環境保全基金」として町に寄付する取組も始めている。



2007年度 第5回 幡多広域観光協議会 高知県四万十市

高知県西南部に位置する幡多地域の6市町村が連携し、1997年に全国に先駆けて環境体験型教育旅行の受入組織として本協議会を設立。広域エリアの「総合受入窓口」として誘致から受入、精算まで一括して取り組んでいる。各地域の受入組織や個人をネットワーク化し、現在では100を超える体験プログラムを提供し、インストラクターも幡多地区全体で500名を超えるなど、充実した体制で受け入れている。



2006年度 第4回 NPO法人 体験観光ネットワーク松浦党・松浦体験型旅行協議会 長崎県松浦市

長崎県北松浦半島地域を舞台に、体験者と受け入れ側が互いに心高める体験型観光「松浦党の里ほんまもん体験」を展開。民間主導のコーディネート組織である特定非営利活動法人体験観光ネットワーク松浦党がネットワークを形成し、広域的な取り組みが行われている。1日最大2000名が対応可能な民泊と農村・漁村を舞台とした豊富な体験プログラムで修学旅行生を中心に受け入れている。



2005年度 第3回 青森県南部町

南部町名川地区のグリーン・ツーリズム活動の原点は、1986年に地域振興の起爆剤にと実施した「さくらんぼ狩り」から始まり、これをきっかけに「名川型交流」という農業体験、郷土料理、地域文化を活かした交流形態を確立。2004年には、首都圏の中高年層と地元のコミュニケーションを結ぶモデル事業「バーチャルビレッジ『達者村』」を開村。活動実績20年をたってもなお、近隣町村と協力体制を図りながら取り組んでいる。



2004年度 第2回 兵庫県八千代町（現 多可町）

1990年から新たな産業として交流産業の創出に着目し、滞在型市民農園（クラインガルテン）や宿泊交流施設、加工体験施設などの整備と併せ、主に神戸市や大阪市などから農林業体験ツアー等の都市住民の受入、地域の活性化を図っている。滞在型市民農園をはじめとした各種交流関連ビジネス起こしにより、多角的な都市農村交流を展開し、交流人口の増大、定住人口の増加を通じた、地域経済の活性化、地域の所得増大をもたらしている。



2003年度 第1回 長野県飯田市

周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第3セクターである（株）南信州観光公社を立ち上げ、400戸以上の農家の協力を得て、年間220校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れている。また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、地域で活躍するインストラクターが約300名も育ち、体験受入農家数も100戸になるなど、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている。

第20回オーライ！ニッポン大賞応募用紙 兼
ふるさとプロボノ支援申込

1 応募部門 ※該当する部門に○を付けて下さい。複数選択可。

①学生若者カツヤク・都市のチカラ部門

②交流イノベーション部門

③元気な農山漁村部門

2 応募者の情報 ※団体、企業、個人等

名称	フリガナ		
代表者名	フリガナ	代表者の職名	
担当者名	フリガナ	担当者の所属・職名	
連絡先	住所 〒	—	TEL
			FAX
			電子メール
	WEBサイト(URL)		Facebook等のSNSアカウント

3 取り組んでいる活動部門の属性 ※該当する部門に○を付けて下さい。複数選択可。

①都市農山漁村交流 ②定住・就農の促進 ③起業や雇用創出の取り組み ④農林漁業体験機会の提供・教育旅行
⑤地域資源の利活用・商品開発 ⑥地域の食に関する取組 ⑦環境保全活動(里山・棚田保全等)
⑧農林漁業以外の方々を含めた地域づくり ⑨地域文化継承・創造 ⑩農林漁業の支援 ⑪空き家活用、テレワーク等
⑫その他(関係人口創出等)()

4 応募者の概要

①活動年数	現在までの活動年数()年 前身の活動年数 ()年 ※現在の取組みの前身となる活動・組織がある場合は、その活動年数もご記入ください。		
②主な活動地域名(市町村名) 主な活動拠点施設名			
③活動を担う人材 (スタッフ)の数	()人 うち専属スタッフ()人		
5 活動の実績・効果 ※活動の実績と効果について、数字で示せるものをご記入ください。	年間交流人数 ※イベント等の参加人数	年間売上金額 ※参加費、産品販売金額等	年間活動の日数
2024年度(4月～3月)			
過去の最も充実した年度 括弧内に年度数を記入してください()年度			
これまでの累計			

6 活動資金について

年間の活動費	おおよそ()円
主な財源(右項目で該当するものに○印を付けて下さい。複数回答可)	①行政の補助事業 ②企業・民間団体等からの助成 ③自己資金(会費収入を含む) ④その他()

7 活動の詳細 (3500文字程度/A4用紙2～4枚程度、本WORD様式の行数を増やして記入ください。)

① 組織の概要(目的、設立経緯等)

7 活動の詳細(つづき) (3500文字程度、本WORD様式の行数を増やして記入ください。)

② 主な活動内容(活動内容が多岐にわたる場合は、都市と農山漁村の交流に関する活動を中心に記述)

③ 活動の成果及び効果

④ マスコミ紹介及び過去の受賞歴について(過去に受賞した、あるいは新聞、雑誌、テレビ番組等、メディアで紹介されたものがあれば、番組名、見出し等をお書きください。)

★参考資料の添付について:応募内容の様子が分かる資料を1点ご提供下さい。例えば、応募内容の補足、応募内容が紹介された記事、応募内容に関連するパンフレット等。コピーやデータ可です。

★写真の添付について:応募された活動内容に関し、ライフスタイルや活動の様子が具体的に分かる写真をご用意ください。枚数は5枚程度に絞り込んでください。解像度の高い鮮明な写真で(データの場合は1枚当たりの容量が1MB~3MB程度)、ライフスタイルの魅力が伝わるものをお送りください。また、応募者本人が写っている写真を含めてください。

8. ふるさとプロボノの実施を希望しますか？

はい・いいえ

★ふるさとプロボノ実施を希望する方は依頼したい作業内容等をできる限り具体的に記してください。

★ 自己の取組について、外部からの支援が必要な事情や、将来ビジョンがあれば記してください。

★ 記載された内容の利用目的及び第三者への提供 (必ず選択してください)

申込用紙の記載内容、添付写真、参考資料などは、オーライ！ニッポン大賞の審査及びふるさとプロボノとの連携のためにのみ使用します。そのために第三者への提供を含め使用させていただくほか、本事業の「オーライ！ニッポン大賞」の活動目的である農山漁村の共生・対流の幅広いPRのために、パンフレットや冊子、ホームページ等への掲載に使用することがあることについて、ご了承いただけますか？

はい・いいえ

第20回オーライ！ニッポン大賞ライフスタイル賞応募用紙
兼 ふるさとプロボノ支援申込

1 応募者の情報

お名前	フリガナ		年齢	才
一言プロフィール (肩書など)	※現在のライフスタイルを一言で表現してみてください。空欄でも構いません。(例:〇〇農園園主、農家民宿〇〇オーナー、〇〇工房主宰など)			
連絡先	住所 〒 ー	TEL		
		FAX		
		電子メール		
	WEBサイト	Facebook等のSNSアカウント		
活動エリア				

2 応募者と農山漁村との関わりについて

※ア～ウの中から該当する項目すべてに○を付け(複数回答可)、それぞれの設問にお答えください。

ア 都市から農山漁村へ移住した

農山漁村の移住後の居住年数	()年
移住のきっかけ ※該当するものに○を付けてください。 (複数回答可)	(1)定年を機に自分(または家族)の希望する地域に移住 (2)定年を機に自分(または家族)の故郷に帰郷 (3)農山漁村地域に自分のライフスタイルや活動拠点を見出して移住 (4)地域づくり活動やボランティアの参加などをきっかけに移住 (5)就職、転職、結婚などを機に移住 (6)その他()

イ 都市と農山漁村を行き来している(二地域居住や週末のみ農山漁村に滞在するなど)

二地域居住等の実践年数	()年
農山漁村に滞在する期間	()※月2～3回、毎週末、季節ごとに1週間など
行き来を始めたきっかけ ※該当するものに○を付けてください。 (複数回答可)	(1)農林漁業や農山漁村地域への興味が高まって (2)癒しや休息を求めて (3)年後の生きがいづくりのため (4)趣味や活動のフィールドとして (5)家族の健康や子どもの教育を考えて (6)農林漁業への就農準備として (7)その他 ()

ウ 農山漁村で都市との交流を実践・活動している

実践・活動の年数	()年
実践内容 ※該当するものに○を付けてください。 (複数回答可)	(1)地域資源を活かした起業活動(民宿、レストラン、地域製品の販売、体験ビジネス等) (2)都市住民と地域住民の交流の場を作る(イベントの主催やSNS交流サイトを立上げ等) (3)地域の環境を都市住民の参加を得ながら保全する(棚田、森林、海岸の保全等) (4)地域資源を活かした教育活動や地域文化を継承創造する活動 (5)新たに移住や交流を希望する者と地域をつなぐ活動 (6)その他()
実践を始めたきっかけ ※該当するものに○を付けてください。 (複数回答可)	(1)地域への興味・関心から (2)収入アップを目指して (3)自分の経験・知識を活かすため (4)地域からの要望にこたえて (5)健康や教育、環境への関心が高まって (6)その他()

3 ライフスタイルの詳細 (全体で3500文字程度／A4用紙2～4枚程度、本様式の行数を増やして記入ください。)

① 現在のライフスタイルを始めるまでの経緯（開始までの経歴、開始の動機やきっかけ等）

3 ライフスタイルの詳細の続き(全体で3500文字程度／本様式の行数を増やして記入ください。)

② 現在のライフスタイルの概要(誰と、どこで、どのようなライフスタイルを行っているか。)

③ 地域との関わり方及び今後の目標等(地域の人々との交流、地域活動への参加、地域と外部との橋渡し活動や、現在抱えている課題と課題解決に向けた方策、または応募に当たっての意気込み、全国へのメッセージ等があればご記入ください。)

④ 過去の受賞歴やここ数年間の各種マスコミへの掲載等があればご記入ください。(表彰事業名、受賞名、表彰段題名や新聞、雑誌、テレビ番組等、メディアに紹介されたものがあれば、番組名、見出し等をお書きください。)

★参考資料の添付について:応募内容の様子が分かる資料を1点ご提供下さい。例えば、応募内容の補足、応募内容が紹介された記事、応募内容に関連するパンフレット等。コピーやデータ可です。

★写真の添付について:応募された活動内容に関し、ライフスタイルや活動の様子が具体的に分かる写真をご用意ください。枚数は5枚程度に絞り込んでください。解像度の高い鮮明な写真で(データの場合は1枚当たりの容量が1MB～3MB程度)、ライフスタイルの魅力が伝わるものをお送りください。また、応募者本人が写っている写真を含めてください。

4. ふるさとプロボノの実施を希望しますか？

はい・いいえ

★ふるさとプロボノ実施を希望する方は依頼したい作業内容等をできる限り具体的に記してください

★ 自己の取組について、外部からの支援が必要な事情や、将来ビジョンがあれば記してください。

★記載された内容の利用目的及び第三者への提供 (必ず選択してください)

申込用紙の記載内容、添付写真、参考資料などは、オーライ！ニッポン大賞の審査及びふるさとプロボノとの連携のためにのみ使用します。そのために第三者への提供を含め使用させていただくほか、本事業の「オーライ！ニッポン大賞」の活動目的である農山漁村の共生・対流の幅広いPRのために、パンフレットや冊子、ホームページ等への掲載に使用することがあることについて、ご了承いただけますか？

はい・いいえ